

稚内高校

令和 8 年度シラバス

衛生看護科 2 年

目次

1. 国語表現	9. 家庭基礎	17. 成人看護学（内分泌）
2. 公共	10. 基礎看護学(技術)	18. 成人看護学（血液）
3. 数学Ⅰ	11. 人体の構造と機能(解剖生理学)	19. 小児看護学
4. 数学A	12. 疾病の成り立ちと回復の促進(病理学)	20. 健康支援と社会保障制度(公衆衛生学)
5. 生物基礎	13. 成人看護学（概論）	21. 看護情報
6. 体育	14. 成人看護学（消化器）	22. 臨地実習(授業・基礎実習)
7. 保健	15. 成人看護学（循環器）	
8. 英語コミュニケーションⅡ	16. 成人看護学（呼吸器）	

教科	国語	科目	国語表現	年次	2	単位数	2	必修	
使用教科書	国語表現（大修館書店）								
使用副教材	国語表現 基礎練習ノート（大修館書店） 漢字とことば 常用漢字アルファ 五訂版（桐原書店）								
科目の目標	国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。								
評価の観点	① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨	実社会に必要な国語の知識や技能を身につけている。			論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。			言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。		
評価の算出	上記の趣旨をふまえ、定期考査やミニテスト、課題提出状況、課題確認テストを基に評価を算出する。			上記の趣旨をふまえ、定期考査やレポート、課題提出状況を基に評価を算出する。			上記の趣旨をふまえ、レポートや発表、課題提出状況、ノート課題の取り組みを基に評価を算出する。		
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容			①	②		③
前	4	6	1 言葉と出会う レッスン1・2			◎	○	○	ミニテスト ノート課題取り組み
	5	6	レッスン3・4			○	◎	○	定期考査 授業での様子
	6	8	前期中間考査 レッスン5・実践トレーニング①			◎	◎	○	課題提出
期	7	4	2 伝える、伝え合う レッスン1・2			○	◎	○	ミニテスト ノート課題取り組み
	8	4	レッスン3・4 前期期末考査			◎	◎	○	定期考査 授業での様子
	9	8	3 小論文・レポート入門 レッスン1・2			○	◎	○	課題提出
後	10	8	レッスン3・4			○	◎	○	ミニテスト ノート課題取り組み
	11	8	後期中間考査 レッスン5・6			○	◎	○	定期考査 授業での様子
	12	6	レッスン6			○	◎	○	課題提出
期	1	4	レッスン7			○	◎	○	ミニテスト レポート
	2	4	後期期末考査			◎	◎	◎	ノート課題取り組み
	3	4	レポート執筆・発表 大テーマに沿って小テーマを設定し、レポートを書く						定期考査 授業での様子 課題提出
合計		70							
学 習 方 法 ・ そ の 他									
○書けない・読めない・わからない漢字や語句を見つけたら、必ず、自ら調べましょう。漢字や語句の知識は、文章を話す・書く・読むにあたって重要な力です。									
○定期的に漢字や語句のミニテストを実施します。日進月歩です。									

教科		公民		科目	公共		学年	2		単位数	2		必修		
使用教科書		公共（701東京書籍）													
使用副教材		最新公共資料集（第一学習社） 公共ワークノート（東京書籍）													
科目の目標		人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力の育成を図る。													
評価の観点		① 知識・技能					② 思考・判断・表現					③ 主体的に学習に取り組む態度			
評価の趣旨		現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解している。また、現代の諸課題を示す諸資料から、必要な情報を適切かつ効果的に調べ、その情報をまとめている。					現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを表現したりしている。					よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。また、現代の諸課題について主体的に解決しようとする過程を振り返り、自己評価し、それを基に自らを改善しようとしている。			
評価の算出		・定期考査 達成度をA・B・Cの3段階で評価する。					・定期考査 達成度をA・B・Cの3段階で評価する。					・提出物、授業での発言や取り組み 達成度をA・B・Cの3段階で評価する。			
年 間 の 学 習 計 画											評価の重点			評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容								①	②	③		
前 期	4	1	第1編 公共の扉（知識の習得）											授業の取り組み、定期考査	
		5	第1章 公共的な空間をつくる私たち								○	○	◎		
		6	第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方								○	○	◎		
	6	7	第3章 日本の平和主義と安全保障								○	○	◎		授業の取り組み、定期考査
		1	前期中間考査								◎	◎			
		7	第2編 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち								○	○	◎		
	8	4	第1章 法的な主体となる私たち（主題1～3）								○	○	◎		授業の取り組み、定期考査
			①法や規範の意義と役割 ②契約と消費者の権利 ③司法参加								○	○	◎		
		9	前期期末考査								◎	◎			
後 期	10	8	第2章 政治的な主体となる私たち（主題4～7）								○	○	◎	授業の取り組み、定期考査	
		11	④政治参加 ⑤国際社会 ⑥日本の安全保障 ⑦国際社会の変化								○	○	◎		
		1	後期中間考査								◎	◎			
	12	6	第3章 経済的な主体となる私たち（主題8～13）								○	○	◎	授業の取り組み、定期考査	
			⑧雇用と労働問題 ⑨社会の変化と職業観								○	○	◎		
		1	⑩市場経済の機能と限界								○	○	◎		
	2	3	⑪金融のはたらき ⑫財政の役割と社会保障 ⑬経済のグローバル化								○	○	◎	授業の取り組み、定期考査	
		1	後期期末考査								◎	◎			
		3	第2編 持続可能な社会づくりの主体となる私たち（探究活動）								◎	◎	◎		
	合計		70	課題設定→仮説→情報の収集→探究→発表→まとめ→振り返り								◎	◎	◎	課題の取り組み
学 習 方 法 ・ そ の 他															
○考査及び評価について（補足） ・上の「評価算出」で合算した点数を、考査の平均点を考慮し評価段階にあてはめて評価をします。 ・定期考査では「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」の2観点を評価します。成績不振は30点未満です。 ○授業と学習方法 ・教科書とワーク、プリントを保管するためのファイルやノートの計3点を持ってきて下さい。 ・副教材の資料集は、家庭学習の応用や、テスト前の復習に活用してください。 ・授業のスタイルはプリント授業となっています。予習としては、授業内で指示された教科書のページ数を読みましょう。 ・常日頃から、ニュースに興味や関心をもち、新聞やテレビのニュースに目を通しておく習慣をつけておきましょう。															

教 科		数学	科目	数学Ⅰ（看護科）	年次	2	単位数	1	必修	
使用教科書		新編 数学Ⅰ（第一学習社） 新編 数学Ⅰ サポートブック（第一学習社）								
使用副教材		スタディ数学Ⅰ（第一学習社）								
科目の目標		授業を通して知識や数学的な考え方を身につけ、問題演習を通して定着し、自分で問題を解くことができる。								
評価の観点		① 知識・技能				② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨		自分の考えを文章や数式に表すことができる。説明された内容を理解し、それを活用して問題が解くことができる。				問題文から立式したり、図や数式を用いて考察することができる。		授業に積極的に参加し、自分で問題を解くことができる。		
評価の算出		上記の評価の趣旨を踏まえ、定期考査をもとに評価の算出を行う。				上記の評価の趣旨を踏まえ、定期考査をもとに評価の算出を行う。		上記の評価の趣旨を踏まえ、提出課題をもとに評価の算出を行う。		
年 間 の 学 習 計 画							評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容				①	②		③
前 期	4	6	第3章 図形と計量 三角比 三角比の利用				◎	○	◎	取り組み
	5	6					◎	○	◎	取り組み
			○	◎	◎	取り組み				
			○	◎	◎	取り組み				
	6	8	前期中間考査				◎	◎	◎	定期考査、提出物
	7	4	正弦定理／余弦定理／三角形の面積				◎	○	◎	取り組み
			正弦定理と余弦定理の利用				○	◎	◎	取り組み
			第5章 データの分析 データの整理／代表値				◎	○	◎	取り組み
			データの散らばりと四分位数				◎	○	◎	取り組み
外れ値／データの散らばりと標準偏差				○	◎	◎	取り組み			
9	7	前期期末考査				◎	◎	◎	定期考査、提出物	
		データの相関／仮説検定の考え方				◎	○	◎	取り組み	
後 期	10									
	11									
	12									
	1									
	2									
	3									
合計		35								
学 習 方 法 ・ そ の 他										
○授業の受け方 授業を聞いてわからない所を明確にしましょう。 授業を聞いて理解ができれば問題集にも取り組んでみましょう。 ○提出物について 提出物を課されたら、自分の力で取り組んでみましょう。評価にも入るため期限を守りましょう。 わからないところは質問したり解答・解説を読んだりしてもう一度取り組みましょう。 ○定期考査 定期考査は普段の勉強が重要です。日頃から問題集にこつこつ取り組みましょう。										

教 科		数学	科目	数学A（看護科）	年次	2	単位数	1	必修	
使用教科書		よくわかる 新編数学A（第一学習社）								
使用副教材		新版 スタディ 数学A（第一学習社）								
科目の目標		授業を通して知識や数学的な考え方を身につけ、問題演習を通して定着し、自分で問題を解くことができる。								
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨		自分の考えを文章や数式に表すことができる。説明された内容を理解し、それを活用して問題が解くことができる。			問題文から立式したり、図や数式を用いて考察することができる。			授業に積極的に参加し、自分で問題を解くことができる。		
評価の算出		上記の評価の趣旨を踏まえ、定期考査をもとに評価の算出を行う。			上記の評価の趣旨を踏まえ、定期考査をもとに評価の算出を行う。			上記の評価の趣旨を踏まえ、提出課題をもとに評価の算出を行う。		
年 間 の 学 習 計 画							評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容				①	②		
前 期	4									
	5									
	6									
	7									
	8									
	9									
後 期	10	8	第1章 場合の数	集合／集合の要素の個数／数え上げの原則			◎	○	◎	取り組み
				順列／重複順列			◎	○	◎	取り組み
	11	9		円順列／組合せ／組合せの利用			○	◎	◎	取り組み
	12	6	後期中間考査				◎	◎	◎	定期考査、提出物
			第2章 確率	事象と確率			◎	○	◎	取り組み
	1	4		確率の基本的な性質／余事象の確率			◎	○	◎	取り組み
				独立な試行の確率			○	◎	◎	取り組み
	2	4		反復試行の確率／条件つき確率			○	◎	◎	取り組み
		後期期末考査				◎	◎	◎	定期考査、提出物	
	3	4		期待値			◎	○	◎	取り組み
合計		35								
学 習 方 法 ・ そ の 他										
○授業の受け方 授業を聞いてわからない所を明確にしましょう。 授業を聞いて理解ができれば問題集にも取り組んでみましょう。 ○提出物について 提出物を課されたら、自分の力で取り組んでみましょう。評価にも入るため期限を守りましょう。 わからないところは質問したり解答・解説を読んだりしてもらう一度取り組みましょう。 ○定期考査 定期考査は普段の勉強が重要です。日頃から問題集にこつこつ取り組みましょう。										

教科		理科	科目	生物基礎	年次	2	単位数	2	必修	
使用教科書		改訂版 生物基礎（数研出版）								
使用副教材		三訂版 リードLight生物基礎（数研出版）								
科目の目標		生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を身に付ける。								
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨		日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を見付けている。			生物や生物現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。			生物や生物現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。		
評価の算出		定期考査・小テスト・提出課題・レポート課題			定期考査・小テスト・提出課題・レポート課題			授業参加・レポート課題・提出課題・小テスト		
年 間 の 学 習 計 画							評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容				①	②		
前期	4	1	●オリエンテーション							小テスト・提出課題・レポート課題 レポート課題 小テスト・提出課題・レポート課題 定期考査 小テスト・提出課題・レポート課題 レポート課題 小テスト・提出課題・レポート課題 定期考査 小テスト・提出課題・レポート課題 レポート課題
		5	●生物の特徴				◎	◎	○	
	5	3	【観察・実験】顕微鏡観察の基本操作、細胞の観察、酵素のはたらき				○	◎	◎	
		3	●生物の特徴				◎	◎	○	
	6	1	《前期中間考査》				◎	◎		
		6	●遺伝子とその働き				◎	◎	○	
	7	1	【観察・実験】DNAの抽出				○	◎	◎	
		4	●遺伝子とその働き				◎	◎	○	
		4	●神経系と内分泌系による調節				◎	◎	○	
		9	《前期期末考査》				◎	◎		
6		●神経系と内分泌系による調節				◎	◎	○		
後期	10	7	●免疫				◎	◎	○	小テスト・提出課題・レポート課題 レポート課題 小テスト・提出課題・レポート課題 小テスト・提出課題・レポート課題 定期考査 小テスト・提出課題・レポート課題 レポート課題 小テスト・提出課題・レポート課題 定期考査 小テスト・提出課題・レポート課題 ●まとめ 授業参加
		1	【観察・実験】食作用の観察				○	◎	◎	
	11	4	●免疫				◎	◎	○	
		3	●植生と遷移				◎	◎	○	
	12	1	《後期中間考査》				◎	◎		
		6	●植生と遷移				◎	◎	○	
	1	3	●生態系とその保全				◎	◎	○	
		1	【観察・実験】海洋生物の観察				○	◎	◎	
	2	3	●生態系とその保全				◎	◎	○	
		1	《後期期末考査》				◎	◎		
3	3	●生態系とその保全				◎	◎	○		
	1	●まとめ				○	○	○		
合計		70								
学 習 方 法 ・ そ の 他										
◎授業の受け方 ・毎回必ず教科書、ノート、タブレット端末を用意しましょう。また、忘れ物をした際には事前に申し出てください。 ・なぜ？どうして？という疑問を持ち、授業を通してその疑問を解決していきましょう。 ・わからないことはどんどん質問してください。 ◎家庭学習の仕方 －予習－ ・教科書に目を通してどんな内容を学ぶのかを把握するよう努めてください。 －復習－ ・教科書とノートを熟読して内容を定着させましょう。 ・問題集を解いて、授業を理解できているか確認し、間違えたところを重点的に学び直しましょう。 わたしたちはたくさんの生命に囲まれて生活しています。その奥深さを理解し面白さに触れていきましょう！										

教 科		保健体育	科目	体育	学年	2	単位数	2	必修	
使用教科書		なし								
使用副教材		なし								
科目の目標		運動の合理的・計画的な実践を通して知識を深めるとともに技能を高め、楽しさを深く味わうことができるようにする。 自己の体力向上及び健康の保持増進を図り、公正、協力、責任、参画、安全などに対する意欲を高める。 生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。								
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨		運動の考え方や技の名称、行い方、体力の高め方、課題解決の方法などを理解できているか。 運動の特性や魅力に応じた楽しさを味わい、技能や動きなどを高めることができたか。			グループやチーム、自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できているか。また、取り組みから得た知識・技能をまとめることができていますか。			運動に主体的に取り組み、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとしているか。		
評価の算出		A：技能、知識共に達成度が高い。 B：概ね達成することができた。 C：技能、知識共に達成度が低い。			A：話し合い活動や発表の様子が積極的である。資料の完成度が高い。 B：概ね、達成する事ができた。 C：話し合い活動の様子が発表、資料の完成度の水準が低い。			A：積極的に活動に参加し、役割以上に取り組むことができた。 B：活動に参加し、自己の役割を果たすことができた。 C：活動への参加が消極的であり、他人任せである。		
年 間 の 学 習 計 画							評価の重点			評価方法
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容				①	②	③	
前 期	4	1	オリエンテーション【1】				○	○	○	小テスト 記録用紙 新体力テスト換算表 記録用紙 縄跳び換算表 記録用紙 長距離走タイム換算表 記録用紙 種目確認・各種テスト 記録用紙 種目確認・各種テスト
	5	1	体育理論【1】：①スポーツにおける技能と体力				○	○	○	
		2	集団行動【2】				○	○	○	
	6	9	新体力テスト【4】 体づくり運動【5】：体ほぐし運動・縄跳び				○	○	○	
		3	陸上競技：長距離走【3】				○	○	○	
	7	16	選択【16】 サッカー、バレーボール				○	○	○	
	8						○	○	○	
	9									
		10	3	体育理論【3】 ②スポーツにおける技術と戦術 ③技術の上達過程と練習 ④効果的な動きのメカニズム				○	○	
	11	11	カーリング授業【11】				○	○	○	
	12	8	(男)武道【8】：柔道／(女)ダンス【8】：創作ダンス				○	○	○	
		2	体育理論【2】 ⑤運動やスポーツでの安全の確保				○	○	○	
	1	8	器械運動（共通）マット運動、跳び箱【8】				○	○	○	
	2	3	選択球技Ⅰ 卓球・バドミントン 【3】				○	○	○	
	3	3	選択球技Ⅰ 卓球・バドミントン 【2】				○	○	○	
合計		70								
学 習 方 法 ・ そ の 他										
◎授業の受け方 ・指定ジャージ上下、ハーフパンツ、指定Tシャツは毎回準備して下さい。屋外で実施する場合は指定運動靴を使用してください。 ※屋外用指定運動靴には、使用前までに『名前』を必ず記入するようにお願いします。 ※屋外用指定運動靴は、指定のシューズケースに入れ、靴箱にしまうこと。 ・体育館やグラウンドへの移動を早めに済ませ、始業チャイムまでに整列して待機して下さい。 ・「わかった!、できた!」を目指した授業を展開します。運動技能の得意・不得意に関わらず意欲を持って臨んで下さい。 ◎提出物について ・『授業課題』をタブレットを活用して配布します。課題の指示を確認し、提出期限を守ることを大切にして下さい。 ・「思考・判断・表現」の評価対象になります。 ◎定期考査について ・実施しません。その代わりに授業内で運動技能テスト（スキルテスト）及び運動への理解度テスト（ペーパーテスト）を実施します。 ◎カーリングについて ・わからないみどりスポーツパークで2回実施します。詳しくはガイダンスを実施します。 ◎体育理論の実施時期は、単元の進行状況によって変更する場合があります。										

教 科	保健体育	科目	保健	学年	2	単位数	1	必修	
使用教科書	現代高等保健体育（大修館書店）								
使用副教材	現代高等保健体育ノート（大修館書店）								
科目の目標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。								
評価の観点	① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨	個人及び社会生活における健康・安全についての知識を身に付け、その役割について理解できているか。			健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、筋道を立てて他者に表現できているか。			自他の健康やそれを支える環境づくりに関心をもち、実生活と結びつけて総合的に捉えようとする態度が身についているか。		
評価の算出	・定期考査 達成度をA・B・Cの3段階で評価する。			・定期考査 達成度をA・B・Cの3段階で評価する。			・授業参加状況 ・提出物の内容 達成度をA・B・Cの3段階で評価する。		
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容			①	②		③
前 期	4	3	オリエンテーション(1) ライフステージと健康(2)			○	○	○	・観察による評価
	5	3	思春期と健康(2) 性意識と性行動の選択(1)			○	○	○	・観察による評価
	6	4	妊娠・出産と健康(2) 避妊法と人工妊娠中絶(2)			○	○	○	・観察による評価
	7	2	結婚生活と健康(1) 中高年期と健康(1)			○	○	○	・観察による評価
	8	2	働くことと健康(1) 労働災害と健康(1)			○	○	○	・観察による評価
	9	4	健康的な職業生活(2) 前期期末考査・返却(2)			○	○	○	・定期考査 ・ノート提出
後 期	10	4	大気汚染と健康（1） 水質汚濁・土壌汚染と健康（2） 環境と健康にかかわる対策(1)			○	○	○	・観察による評価
	11	4	ごみの処理と上下水道の整備(1) 食品の安全性(2) 食品衛生にかかわる活動（1）			○	○	○	・観察による評価
	12	3	保健サービスとその活用(1) 医療サービスとその活用(1) 医薬品の制度とその活用(1)			○	○	○	・観察による評価
	1	2	医薬品の制度とその活用(1) さまざまな保健活動や社会的対策(1)			○	○	○	・観察による評価
	2	2	後期期末考査・返却(2)			○	○	○	・定期考査 ・ノート提出
	3	2	高等学校保健についてのまとめ(1)			○	○	○	・観察による評価
合計	35								
学 習 方 法 ・ そ の 他									
◎授業の受け方 ・教科書/ノート/タブレットを用意してください。 ・基本的知識を理解して課題解決するために、積極的に発言したり、グループ活動に参加することが大切です。 ・形態は一斉、グループ学習、ペアワーク、実験など様々です。ねらいを理解して取り組みましょう。 ◎定期考査について ・前期期末考査と後期期末考査で実施します。出題範囲が広がりますので計画的に家庭学習に取り組んで下さい。 ◎ノート提出について ・各期考査に合わせて、学習ノートの提出があります。コツコツ取り組みましょう。									

教 科	外国語	科目	英語コミュニケーションⅡ	年次	2	単位数	2	必修	
使用教科書	FLEX② ENGLISH COMMUNICATION								
使用副教材	FLEX② ENGLISH COMMUNICATION 予習＆授業ノート								
科目の目標	Can-Doリストに基づく								
評価の観点	① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨	・外国語の音声や語彙、表現、文法などを正しく理解し、用いることができる。 ・英語を用いた言語活動を通して実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能が身についている。			・必要な情報を読み取り、話し手や書き手の意図を把握したり、概要や要点などを目的に応じてとらえることができる。 ・日常的、社会的な話題について、一定の支援や準備を活用すれば、多様な語句や文を用いて情報や考え、気持ちなどを詳しく伝えあうやり取りを続けることができる。 ・日常的、社会的な話題について、事前の準備や一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて論理性に注意して複数の段落からなる文章で詳しく書くことができる。			・外国語の音声や語彙、表現、文法などを正しく理解しようとしている。 ・日常的、社会的な話題について、一定の支援や準備を活用すれば、多様な語句や文を用いて情報や考え、気持ちなどを詳しく伝えあうやり取りを続けようとしている。 ・自分の学習に関して見通しを立てたり振り返ったりして、課題を見つけたり、前の自分と比べて何ができるようになったかや、課題を解決するために必要な取り組みについて具体的に考えている。		
評価の算出	・定期考査 ・単元テスト			・定期考査 ・パフォーマンステスト			・パフォーマンステスト ・提出物 ・振り返り		
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容			①	②		③
前 期	4	6	Lesson1 Anime Pilgrimages アニメの聖地についての文章を読み、概要を理解する			◎		○	単元テスト、提出物
	5	1	↓						
	5	5	パフォーマンステスト（自分の好きな作品の「聖地」を紹介する）				◎	○	パフォーマンステスト
	6	8	Lesson2 Iwaya Keisuke and the Pursuit of Dreams 発明家についての文章を読み、概要を理解する 前期中間考査			◎		○	単元テスト、提出物
	7	3	パフォーマンステスト（ライティング）				◎	○	定期考査、振り返り
	7	1	Lesson3 The Surprising History of Salt 塩の歴史や役割についての文章を読み、内容を理解する			◎		○	パフォーマンステスト
	8	4	↓						
	9	3	パフォーマンステスト（調味料の歴史や人体への影響を説明をする）				◎	○	単元テスト、提出物
	9	5	前期期末考査			◎	◎	○	パフォーマンステスト 定期考査、振り返り
後 期	10	7	Lesson4 A Future World, with or without Sea Turtles ウミガメについての文章を読み、内容を理解する			◎		○	単元テスト、提出物
	11	1	パフォーマンステスト（ライティング）				◎	○	パフォーマンステスト
	11	7	Lesson5 The Psychology of Waiting in Line 行列についての文章を読み、内容を理解する 後期中間考査			◎		○	単元テスト、提出物
	12	5	パフォーマンステスト（日常の待たされる場面について考える）				◎	○	定期考査、振り返り
	12	1	Lesson6 The human Library Human Libraryについての文章を読み、内容を理解する			◎		○	パフォーマンステスト
	1	4	↓						
	2	2	パフォーマンステスト（ライティング）				◎	○	単元テスト、提出物
	2	2	後期期末考査			◎	◎	○	パフォーマンステスト 定期考査、振り返り
	3	4	2年次総復習			◎	◎		
合計	70								
学 習 方 法 ・ そ の 他									
・用意するもの：教科書、ワーク、筆記用具、タブレットPC、A4ファイル（二つ穴が開いて閉じられるもの）。 ・この授業では、皆さんの取り組みを細かい項目にわたって評価しますので、テストだけ頑張る、提出物だけ出す、のではなく全体的にしっかり取り組みましょう。 ・ペアワークやグループワークをたくさん行います。英語でどう表現すればわからないときは、タブレットを活用したり、先生に聞いたりして新しい表現を積極的に身につけていって下さい。									

教 科	家庭	科目	家庭基礎	年次	2	単位数	2	必修	
使用教科書	Agenda家庭基礎 実教出版								
使用副教材	生活学Navi 資料＋成分表 2026 実教出版								
科目の目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成する。								
評価の観点	① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会の関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係わる技能を身に付けている。			生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。			様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。		
評価の算出	【知識・技能】テスト、実習 【思考・判断・表現】テスト、観察、ワークシート 【主体的に学習に取り組む態度】観察、ワークシート、実習								
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容			①	②		③
前 期	4	1	オリエンテーション			◎	◎	◎	ワークシート、実習 テスト
		5	6章 衣生活 一選んで着るー						
	5	5	6章 衣生活 一選んで着るー（被服実習）						
		1	<前期中間考査>						
	6	4	6章 衣生活 一選んで着るー（被服実習）						
		4	1章 自分・家族 ー多様化した社会に生きるー						
	7	1	1章 自分・家族 ー多様化した社会に生きるー						
		3	2章 子ども ー子どもと生きるー						
	8	4	2章 子ども ー子どもと生きるー						
9	5	3章 高齢者 ー高齢者と生きるー							
9	3	4章 社会福祉 ー支えあいともに生きるー（見学旅行）							
後 期	10	8	5章 食生活 ー楽しく安全に食べるー			◎	◎	◎	ワークシート、実習 テスト
	11	6	5章 食生活 ー楽しく安全に食べるー（調理実習）						
		1	8章 消費・環境 ー消費社会を生きるー						
		1	<後期中間考査>						
	12	6	8章 消費・環境 ー消費社会を生きるー（金融講話）						
		1	4	7章 住生活 ー人間らしく住むー					
	2	4	7章 住生活 ー人間らしく住むー						
3	4	7章 住生活 ー人間らしく住むー							
合計	70								
学 習 方 法 ・ そ の 他									
<<授業について>> ・家庭生活の充実と向上を目指し、さまざまな視点から家庭生活について学びます。自分の生活と関連づけて各分野の学習に取り組みましょう。									
<<定期考査>> ・年2回実施（前期中間、後期中間）									

教科		看護	科目	基礎看護学(技術)	学年	2	単位数	4	必修	
使用教科書		高等学校 看護「基礎看護」〔文部科学省〕								
使用副教材		(1)系統看護学講座 基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ(医学書院) (2)系統看護学講座 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ(医学書院) (3)根拠と事故防止から見た基礎臨床看護技術(医学書院)								
科目の目標		(1)看護について体系的・系統的に理解するとともに、関連する基礎的な技術を知ることができる。 (2)よりよい看護の実践をめざして自ら学び、日常生活の援助及び、診療に伴う援助における看護の課題発見に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。								
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨		看護の基本となる援助に関する知識と技術を科学的根拠をもとに身につけることができる。			看護援助について対象者の立場に立った視点を持ち、自分の考えを発することができる。			生徒自ら適切な挨拶をすることができる。提出物を過不足無く、期限内に提出することができる。意欲的に授業に参加することができる。		
評価の算出		定期考査・提出物・実技その他（授業態度など）								
年 間 の 学 習 計 画							評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容				①	②		③
前期	4	13	系統看護学講座・専門分野Ⅰ・基礎看護技術Ⅰ（基礎看護学②）〔医学書院〕 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術（医学書院） 4章 ヘルスアセスメント(バイタルサイン ※実技テスト)				○	◎	○	授業の取り組み、実技、考査等 授業の取り組み、実技、考査等 授業の取り組み、実技、考査等 考査 授業の取り組み、実技、考査等 授業の取り組み、実技、考査等 授業の取り組み、実技、考査等 考査
	5	12	4章 ヘルスアセスメント(バイタルサイン ※実技テスト)				○	◎	○	
	6	14	4章まとめ 2章感染防止の技術（滅菌操作） 1 前期中間考査				○	◎	○	
	7	8	2章 感染防止の技術（滅菌操作、ガウン・手袋の取扱実習） 系統看護学講座・専門分野Ⅰ・基礎看護技術Ⅱ（基礎看護学③）〔医学書院〕 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術（医学書院） 2章 食事援助技術（食事介助、嚥下訓練実習）				○			
	8	13	3章 排泄援助技術（尿器・便器、陰部洗浄、排便ケア実習）				○			
	9	10	3章 排泄援助技術（尿器・便器、陰部洗浄、排便ケア実習） 1 前期期末考査				○			
							◎			
後期	10	10	系統看護学講座・専門分野Ⅰ・基礎看護技術Ⅱ（基礎看護学③）〔医学書院〕 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術（医学書院） 7章 呼吸・循環を整える技術（酸素吸入、排痰ケア）				○	◎	○	授業の取り組み、実技、考査等 授業の取り組み、実技、考査等 授業の取り組み、実技、考査等 考査 授業の取り組み、実技、考査等 授業の取り組み、実技、考査等 考査 授業の取り組み、実技、考査等 考査
	11	12	系統看護学講座・専門分野Ⅰ・基礎看護技術Ⅱ（基礎看護学③）〔医学書院〕 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術（医学書院） 7章 呼吸・循環を整える技術（酸素吸入、排痰ケア） 1 後期中間考査				○	◎	○	
	12	12	系統看護学講座・専門分野Ⅰ・基礎看護技術Ⅰ（基礎看護学②）〔医学書院〕 4章 ヘルスアセスメント(フィジカルアセスメント) ※肺・循環器・腹部のフィジカルアセスメント実習				○	◎	○	
	1	12	系統看護学講座・専門分野Ⅰ・基礎看護技術Ⅱ（基礎看護学③）〔医学書院〕 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術（医学書院）（4章と8章）				○	◎	○	
	2	10	8章 創傷管理技術（創傷管理、包帯法実習、褥瘡予防） 1 後期期末考査				○			
							◎			
	3	10	まとめ（臨床実習に向けたアセスメント、記録の書き方等）				○	◎	○	
合計		140								
学 習 方 法 ・ そ の 他										
◎授業の受け方 ・教科書とプリント、タブレットで授業が展開されます。日常生活で看護に関する話題に関心を持ち、生活援助のために必要な基本的な知識・技術を学び、基礎基本にしたがって 校内実習を行います。校内実習時は患者と看護師の両方を経験します。患者の立場で援助方法とその理由を考え、基礎基本をもとに状況に応じた援助ができるよう心がけて下さい。校内実習の反省レポートは自分が実際に準備した必要物品や実施方法について振り返り、学んだ点や反省点についてまとめていきます。										

教 科	看護	科目	人体の構造と機能(解剖生理学)	学年	2	単位数	1	必修	
使用教科書	なし								
使用副教材	(1)系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 人体の構造と機能 (医学書院) (2)書いて覚える解剖生理ワークブック(照林社)								
科目の目標	看護実践に適切に活用するために必要な、人体の構造と機能に関する解剖生理学の基礎的な知識を体系的・系統的に理解し、それらを生活行動や健康と関連づけて考えることができる。解剖生理について自ら学び、健康の保持増進を目指す看護への活用主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。								
評価の観点	① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨	人体の構造や機能に関する内容を理解することができる。			基礎知識をもとに、実際の患者と照らし合わせて物事を考えることができる。発問に対して、自らの意見を発言することができる。			生徒自ら適切な挨拶をすることができる。提出物を過不足無く、期限内に提出することができる。意欲的に授業に参加することができる。		
評価の算出	定期考査、提出物、授業態度等								
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容			①	②		③
前 期	4	8	8章 情報の受容と処理 (体性感覚と上行伝導路、眼の構造と視覚・平衡覚、味覚と嗅覚、痛み)			◎	○	○	授業の取り組み、考査等
	5	8	9章 身体の機能の防御と適応 (皮膚の構造と機能、生体の防御機能、代謝と運動、体温とその調節)			◎	○	○	
	6	4	9章 身体の機能の防御と適応			◎	○	○	
	1		前期中間考査			◎			
	7	2	10章 生殖・発生と老化のしくみ (男性生殖器、女性生殖器、受精と胎児の発生、成長と老化)			◎	○	○	
	8	3	10章 生殖・発生と老化のしくみ			◎	○	○	
	9	2	10章 生殖・発生と老化のしくみ			◎	○	○	
		1	前期期末考査			◎			
	後 期	10	2	解剖生理学(1章～10章のまとめ)			◎	○	
11		2	解剖生理学(1章～10章のまとめ)			◎	○	○	
		1	後期中間考査			◎			
12		1	まとめ						
1									
2									
3									
合計		35							
学 習 方 法 ・ そ の 他									
◎授業の受け方									
・主にプリントやワークブックを使用した授業が展開されますので、資料はファイルにきちんと整理をしましょう。教科書は図を確認するのに使用します。毎時間持参しましょう。 ・学習の中でVTRや模型、画像などを利用します。文字で様々なことを覚えるだけではなく、目で見て覚えること、頭の中に身体の構造(図)をイメージすることが重要です。例)心臓の血液の流れ、腸の走行など									

教 科	看護	科目	疾病の成り立ちと回復の促進(病理学)	学年	2	単位数	1	必修
使用教科書	なし							
使用副教材	(1)系統看護学講座 疾病のなりたちと回復の促進[1]病理学(医学書院)							
科目の目標	疾病の成り立ちと回復の促進に関する病理病態学について基本的な知識を体系的・系統的に理解する。また、基本的な課題を発見し、疾病の予防や早期発見、回復の促進に向けて解決する力、人々の健康の保持増進のために主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。							
評価の観点	① 知識・技能		② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度			
評価の趣旨	疾病の予防、原因、回復に関する内容を理解することができる。		基礎知識をもとに、実際の患者と照らし合わせて物事を考えることができる。発問に対して、自らの意見を発言することができる。		生徒自ら適切な挨拶をすることができる。提出物を過不足無く、期限内に提出することができる。意欲的に授業に参加することができる。			
評価の算出	定期考査、提出物、その他（授業態度など）							
年 間 の 学 習 計 画					評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容		①	②	③	
前 期	4	2	2章 細胞・組織の損傷と修復、炎症		◎	○	○	授業の取り組み、考査等
	5	2	2章 細胞・組織の損傷と修復、炎症		◎	○	○	授業の取り組み、考査等
	6	3	5章 循環障害		◎	○	○	授業の取り組み、考査等
	1		前期中間考査		◎	○		考査
	7	2	6章 代謝障害		◎	◎	○	授業の取り組み、考査等
	8	2	6章 代謝障害		◎	○	○	授業の取り組み、考査等
	9	3	7章 老化と死		◎	○	○	授業の取り組み、考査等
	1		前期期末考査		◎	○		考査
後 期	10	10	4章 感染症（講師）		◎		○	授業の取り組み、考査等
	11	1	後期中間考査		◎	○		考査
	12	4	3章 免疫（移植・再生医療は除く）（講師）		◎		○	授業の取り組み、考査等
	1	1	8章 先天異常と遺伝性疾患		◎	○	○	授業の取り組み、考査等
	1	1	8章 先天異常と遺伝性疾患		◎	○	○	授業の取り組み、考査等
	2	2	9章 腫瘍		◎	○	○	授業の取り組み、考査等
	3	0						
合計	35							
学 習 方 法 ・ そ の 他								
◎授業の受け方								
・ 疾病の成り立ちと疾病の生理について、疾病からの回復の過程を含めて学習します。 ・ 病気の診断に関わる臨床検査や病気の治療法について学習します。 ・ 看護を行うために必要な疾病の成り立ちや回復の過程に関する基礎的・基本的知識を学習します。 ・ 順番は変更する場合があります。 ・ 外部講師担当の授業があります。								

教	科	看護	科目	成人看護学（概論）	学年	2	単位数	3	必修	
使用教科書		なし								
使用副教材		(1)系統看護学講座・専門分野・消化器（成人看護学5）(医学書院) (2)系統看護学講座・専門分野・呼吸器（成人看護学2）(医学書院) (3)系統看護学講座・専門分野・内分泌・代謝（成人看護学6）(医学書院) (4)系統看護学講座・専門分野・血液・造血器（成人看護学4）(医学書院) (5)系統看護学講座・専門分野・循環器（成人看護学3）(医学書院)								
科目の目標		成人期の身体的・精神的・社会的特徴を理解することができる。成人看護について、よりよい看護の実践を目指して、自ら学び、成人の健康の保持増進に主体的かつ協動的に取り組むことができる。								
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨		成人各期と成人看護の特徴に関する内容を理解し、必要な技術を身に付けることができる。			基礎知識をもとに、実際の患者と照らし合わせて物事を考えることができる。発問に対して、自らの意見を発言することができる。			生徒自ら適切な挨拶をすることができる。提出物を過不足無く、期限内に提出することができる。意欲的に授業に参加することができる。		
評価の算出		定期考査、提出物その他（授業態度など）								
年 間 の 学 習 計 画							評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容				①	②		③
前 										

教 科	看護	科目	成人看護学（消化器）	学年	2	単位数	3	必修	
使用教科書	なし								
使用副教材	(1)系統看護学講座・専門分野・消化器（成人看護学5）(医学書院) (2)系統看護学講座・専門分野・呼吸器（成人看護学2）(医学書院) (3)系統看護学講座・専門分野・内分泌・代謝（成人看護学6）(医学書院) (4)系統看護学講座・専門分野・血液・造血器（成人看護学4）(医学書院) (5)系統看護学講座・専門分野・循環器（成人看護学3）(医学書院)								
科目の目標	成人期の身体的・精神的・社会的特徴を理解することができる。成人看護について、よりよい看護の実践を目指して、自ら学び、成人の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組むことができる。								
評価の観点	① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨	成人各期と成人看護の特徴に関する内容を理解し、必要な技術を身に付けることができる。			基礎知識をもとに、実際の患者と照らし合わせて物事を考えることができる。発問に対して、自らの意見を発言することができる。			生徒自ら適切な挨拶をすることができる。提出物を過不足無く、期限内に提出することができる。意欲的に授業に参加することができる。		
評価の算出	定期考査、提出物その他（授業態度など）								
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容			①	②		③
前 期	4	6	2章 消化器の構造と機能			○	○	◎	授業の取り組み、提出物、考査
			3章 症状とその病態生理 ＜嚥下困難、おくび・胸焼け、吐き気・嘔吐・腹痛、吐血・下血、下痢、便秘、黄疸＞			○	○	◎	授業の取り組み、提出物、考査
	5	10	4章 検査と治療			○	○	◎	授業の取り組み、提出物、考査
			5・6章 疾患の理解・患者の看護 ＜胃・十二指腸潰瘍、胃がん＞			○	○	◎	授業の取り組み、提出物、考査
	6	5	5・6章 疾患の理解・患者の看護 ＜腸閉塞症、大腸がん、肝炎、肝硬変、肝がん＞			○	○	◎	授業の取り組み、提出物、考査
		1	前期中間考査			◎			考査
後 期									
合計		22							
学 習 方 法 ・ そ の 他									
◎授業の受け方 ・プリントが中心となり授業が展開されますので、ファイルにきちんと整理をして下さい。 ・学習内容は全て関連しています。基本事項をしっかりと理解するようにしましょう。 ・黒板に板書されないことでも重要なことを言っている場合があります。しっかりと話を聞き、重要な部分はメモをしてください。 ・わからないことは必ず解決する努力をしてください。確認する、調べる、考えるなどです。 ・プリントが中心となり授業が展開されますので、ファイルにきちんと整理をして下さい。									

教	科	看護	科目	成人看護学（循環器）	学年	2	単位数	3	必修
使用教科書		なし							
使用副教材		(5)系統看護学講座・専門分野Ⅱ・循環器（成人看護学③）(医学書院)							
科目の目標		成人期の身体的・精神的・社会的特徴を理解することができる。成人看護について、よりよい看護の実践を目指して、自ら学び、成人の健康の保持増進に主体的かつ協動的に取り組むことができる。							
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度	
評価の趣旨		成人各期と成人看護の特徴に関する内容を理解し、必要な技術を身に付けることができる。			基礎知識をもとに、実際の患者と照らし合わせて物事を考えることができる。発問に対して、自らの意見を発言することができる。			生徒自ら適切な挨拶をすることができる。提出物を過不足無く、期限内に提出することができる。意欲的に授業に参加することができる。	
評価の算出		定期考査、提出物その他（授業態度など）							
年 間 の 学 習 計 画							評価の重点		評価方法
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容				①	②	
前 <									

教 科	看護	科目	成人看護学（呼吸器）	学年	2	単位数	3	必修
使用教科書	なし							
使用副教材	(1)系統看護学講座・専門分野・消化器（成人看護学5）(医学書院) (2)系統看護学講座・専門分野・呼吸器（成人看護学2）(医学書院) (3)系統看護学講座・専門分野・内分泌・代謝（成人看護学6）(医学書院) (4)系統看護学講座・専門分野・血液・造血器（成人看護学4）(医学書院) (5)系統看護学講座・専門分野・循環器（成人看護学3）(医学書院)							
科目の目標	成人期の身体的・精神的・社会的特徴を理解することができる。成人看護について、よりよい看護の実践を目指して、自ら学び、成人の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組むことができる。							
評価の観点	① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度	
評価の趣旨	成人各期と成人看護の特徴に関する内容を理解し、必要な技術を身に付けることができる。			基礎知識をもとに、実際の患者と照らし合わせて物事を考えることができる。発問に対して、自らの意見を発言することができる。			生徒自ら適切な挨拶をすることができる。提出物を過不足無く、期限内に提出することができる。意欲的に授業に参加することができる。	
評価の算出	定期考査、提出物その他（授業態度など）							
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点		評価方法
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容			①	②	
前 								

教 科	看護	科目	成人看護学（内分泌）	学年	2	単位数	3	必修	
使用教科書	なし								
使用副教材	(1)系統看護学講座・専門分野・消化器（成人看護学5）(医学書院) (2)系統看護学講座・専門分野・呼吸器（成人看護学2）(医学書院) (3)系統看護学講座・専門分野・内分泌・代謝（成人看護学6）(医学書院) (4)系統看護学講座・専門分野・血液・造血器（成人看護学4）(医学書院) (5)系統看護学講座・専門分野・循環器（成人看護学3）(医学書院)								
科目の目標	成人期の身体的・精神的・社会的特徴を理解することができる。成人看護について、よりよい看護の実践を目指して、自ら学び、成人の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組むことができる。								
評価の観点	① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨	成人各期と成人看護の特徴に関する内容を理解し、必要な技術を身に付けることができる。			基礎知識をもとに、実際の患者と照らし合わせて物事を考えることができる。発問に対して、自らの意見を発言することができる。			生徒自ら適切な挨拶をすることができる。提出物を過不足無く、期限内に提出することができる。意欲的に授業に参加することができる。		
評価の算出	定期考査、提出物その他（授業態度など）								
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容			①	②		③
前 期	9	2	2章 内分泌・代謝器官の構造と機能			○	○	◎	授業の取り組み、提出物、考査
後 期	12	2	2章 内分泌・代謝器官の構造と機能			○	○	◎	
		3	4章 検査			○	○	◎	授業の取り組み、提出物、考査
		1	5・6章 疾患の理解・患者の看護 〈バセドウ病〉			○	○	◎	授業の取り組み、提出物、考査
	1	7	5・6章 疾患の理解・患者の看護 〈糖尿病、脂質異常症〉			○	○	◎	授業の取り組み、提出物、考査
	2	2	1年のまとめ			○	○	◎	授業の取り組み、提出物、考査
	1		後期期末考査			◎			考査
合計	18								
学 習 方 法 ・ そ の 他									
◎授業の受け方 ・プリントが中心となり授業が展開されますので、ファイルにきちんと整理をして下さい。 ・学習内容は全て関連しています。基本事項をしっかりと理解するようにしましょう。 ・黒板に板書されないことでも重要なことを言っている場合があります。しっかりと話を聞き、重要な部分はメモをしてください。 ・わからないことは必ず解決する努力をしてください。確認する、調べる、考えるなどです。 ・プリントが中心となり授業が展開されますので、ファイルにきちんと整理をして下さい。									

教	科	看護	科目	成人看護学（血液）	学年	2	単位数	3	必修	
使用教科書		なし								
使用副教材		①系統看護学講座・専門分野・消化器（成人看護学5）（医学書院） ②系統看護学講座・専門分野・呼吸器（成人看護学2）（医学書院） ③系統看護学講座・専門分野・内分泌・代謝（成人看護学6）（医学書院） ④系統看護学講座・専門分野・血液・造血器（成人看護学4）（医学書院） ⑤系統看護学講座・専門分野・循環器（成人看護学3）（医学書院）								
科目の目標		成人期の身体的・精神的・社会的特徴を理解することができる。成人看護について、よりよい看護の実践を目指して、自ら学び、成人の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組むことができる。								
評価の観点		① 知識・技能		② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度				
評価の趣旨		成人各期と成人看護の特徴に関する内容を理解し、必要な技術を身に付けることができる。		基礎知識をもとに、実際の患者と照らし合わせて物事を考えることができる。発問に対して、自らの意見を発言することができる。		生徒自ら適切な挨拶をすることができる。提出物を過不足無く、期限内に提出することができる。意欲的に授業に参加することができる。				
評価の算出		定期考査、提出物その他（授業態度など）								
年 間 の 学 習 計 画							評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容				①	②		③
前										
期										
後	1	5	2章 血液の生理と造血のしくみ 血液の成分と機能				○	○	◎	授業の取り組み、提出物、考査
	2	6	3章 検査 貧血の定義・症状・原因・治療・看護				○	○	◎	授業の取り組み、提出物、考査
			4・5章 疾患と治療の理解 鉄欠乏性貧血、輸血療法の看護、悪性リンパ腫				○	○	◎	授業の取り組み、提出物、考査
	2	5	4・5章 疾患と治療の理解 白血病の病態生理・治療(化学療法・造血幹細胞移植・無菌室)				○	○	◎	授業の取り組み、提出物、考査
			4・5章 疾患と治療の理解 白血病の看護のポイント				○	○	◎	授業の取り組み、提出物、考査
	2	1	後期期末考査				◎			考査
	3	1	まとめ							
期										
合計		18								
学 習 方 法 ・ そ の 他										
◎授業の受け方										
・プリントが中心となり授業が展開されますので、ファイルにきちんと整理をして下さい。 ・学習内容は全て関連しています。基本事項をしっかり理解するようにしましょう。 ・黒板に板書されないことでも重要なことを言っている場合があります。しっかりと話を聞き、重要な部分はメモをしてください。 ・わからないことは必ず解決する努力をしてください。確認する、調べる、考えるなどです。 ・プリントが中心となり授業が展開されますので、ファイルにきちんと整理をして下さい。										

教科 科		看護	科目	小児看護学	学年	2	単位数	1	必修		
使用教科書		なし									
使用副教材		(1)系統看護学講座 専門 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学1 (医学書院)									
科目の目標		身体的・精神的・社会的側面からみた小児の成長・発達の過程や、成長・発達に応じた育児及び健康状態に応じた看護に関する知識を、体系的・系統的に理解する。よりよい看護の実践を目指して、疾病・障害等の回復や健康管理とともに、小児の成長・発達の視点を重視し、主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。									
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度			
評価の趣旨		小児の健康の特徴と保健と福祉に関する内容を理解することができる。			基礎知識をもとに、実際の患者と照らし合わせて物事を考えることができる。発問に対して、自らの意見を発言することができる。			生徒自ら適切な挨拶をすることができる。提出物を過不足無く、期限内に提出することができる。意欲的に授業に参加することができる。			
評価の算出		定期考査、提出物、授業態度等									
年 間 の 学 習 計 画							評価の重点		評価方法		
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容				①	②		③	
前 期	4	6	概論 第1章 小児看護の特徴と理念 小児看護の対象と目標・役割、小児看護における倫理(子どもの権利)				◎	○	○	授業の取り組み、レポート、考査等	
	5 6		概論 第2章 子どもの成長・発達 成長発達とは、成長発達の進み方、成長発達に影響する因子、成長の評価、発達の評価、子どもの栄養(乳汁、離乳食、幼児食、学童・思春期)				◎	○	◎		レポート
	7		6	前期中間考査 概論 第3章 新生児・乳児 児期にある子どもの成長発達の理解 (成長発達の原則・身体的な成長発達の特徴) 精神的・社会的な成長発達の特徴(排泄、清潔、睡眠、保温、コミュニケーション)				◎	○	◎	
	8		2	第4章 幼児・学童				◎	○	◎	授業の取り組み、考査等
	9		3	後期期末考査				◎			
	後 期		10	3	概論 第5章 思春期・青年期の子ども				◎	○	◎
11		4	概論 第6章 家族の特徴とアセスメント				◎	○	◎	授業の取り組み、考査等	
			後期中間考査				◎				授業の取り組み、レポート、考査等 授業の取り組み、レポート、考査等 授業の取り組み、レポート、考査等 考査
12		3	概論 第7章 子どもと家族を取り巻く社会				◎	○	○		
1		3	概論 第7章 子どもと家族を取り巻く社会				◎	○	○		
2		4	7章のまとめ				◎	○	○		
3		1	後期期末考査 まとめ				◎				
合計		35									
学 習 方 法 ・ そ の 他											
◎授業の受け方											
・ プリントや教科書、タブレットを使用した授業が展開されますので、資料はファイルにきちんと整理をしましょう。 ・ 解剖や基礎看護との関係も考えて取り組みましょう。											

教 科	看護	科目	健康支援と社会保障制度(公衆衛生学)	学年	2	単位数	1	必修	
使用教科書									
使用副教材	(1)系統看護学講座・専門基礎分野・健康支援と社会保障制度(2)公衆衛生(医学書院)								
科目の目標	集団を対象として疾病を予防し健康の保持増進を図る看護活動の学習を通して、生活環境や生活行動と健康の関連を体系的・系統的に理解する。健康支援に関する基本的な課題を発見し、合理的かつ創造的に解決する力や、よりよい看護の実践を目指して、多様な生活背景をもつ人々が適切に健康管理を行うために必要な支援の実施に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。								
評価の観点	① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨	公衆衛生の基本と生活環境と健康に関する内容を理解することができる。			基礎知識をもとに、実際の患者と照らし合わせて物事を考えることができる。発問に対して、自らの意見を発言することができる。			生徒自ら適切な挨拶をすることができる。提出物を過不足無く、期限内に提出することができる。意欲的に授業に参加することができる。		
評価の算出	授業態度、定期考査、提出物等								
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容			①	②		③
前 期	4	2	1章 公衆衛生のエッセンス(公衆衛生とはなにか)			○		◎	授業の取り組み、考査等
	5	1	2章 公衆衛生の活動対象			○		◎	授業の取り組み、考査等
		2	3章 公衆衛生のしくみ			○		◎	授業の取り組み、考査等
	6	4	3章 公衆衛生のしくみ			○		◎	授業の取り組み、考査等
	7	2	4章 集団の健康をとらえるための手法－疫学			○	◎	○	授業の取り組み、レポート、考査等
	8	3	4章 集団の健康をとらえるための手法－疫学			○	◎	○	授業の取り組み、レポート、考査等
	9	4	5章 環境と健康			○		◎	授業の取り組み、考査等
		1	前期期末考査			◎			考査
	後 期	10	1	6章 感染症とその予防対策(項目A・B・Cを主に取り上げる)			○		◎
11		3	6章 感染症とその予防対策(項目A・B・Cを主に取り上げる)			○		◎	授業の取り組み、考査等
		1	後期中間考査			◎			考査
12		3	7章 国際保健(項目B・Cを取り上げる)			○		◎	授業の取り組み、考査等
1		3	8章 地域における公衆衛生の実践(項目B・C・D・)			○		◎	授業の取り組み、考査等
2		2	8章 地域における公衆衛生の実践(項目B・C・D・)			○		◎	授業の取り組み、考査等
		1	後期期末考査			◎			考査
3		2	1年のまとめ			○		◎	授業の取り組み、考査等
合計	35								
学 習 方 法 ・ そ の 他									
◎授業の受け方									
・ワークシートを用いて授業を進めます。配布したワークシートはファイルにまとめて保存してください。 ・知識の蓄積が重要になりますので、授業後は必ず復習をしてください。 ・重要なことを口頭で説明する場合があります。メモを取る、マーカーを引く等の工夫をしてください。 ・授業態度も評価の対象となります。意欲的に授業に臨みましょう。									

教 科	看護	科目	看護情報	学年	2	単位数	2	必修		
使用教科書	(1)高校情報Ⅰ Python（実教出版）									
使用副教材	なし									
科目の目標	情報処理について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につける。情報社会の進展に応じた情報と情報技術の理解をもとに個人情報や著作権などの取り扱いについて、望ましい倫理観を身につけ、日常生活において情報と情報技術を適切に活用できる。									
評価の観点	① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度			
評価の趣旨	適切な情報の取り扱いや情報技術に関する内容を理解することができる。			発表内容が論理的であり、各メンバーが平等に発表している。発表の声も大きく、話すスピードもよく、伝えたいことが伝わる。			生徒自ら適切な挨拶をすることができる。提出物を過不足無く、期限内に提出することができる。意欲的に授業に参加することができる。			
評価の算出	定期考査、授業態度、提出物等									
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点		評価方法		
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容			①	②		③	
前 期	4	6	・ガイダンス（情報処理教室の使い方、PCの基本操作） 4章 ワープロソフトの活用			◎		◎	授業の取り組み	
	5	4	・Windowsの基本操作の説明（タイピング練習）			◎		○	授業の取り組み、実技、	
	6	8	・Wordの実演（基本問題を通した基本的なWordの実習、Word能力の向上） ・病院紹介のポスター作成（情報の収集・整理・分析）			◎ ◎		◎	授業の取り組み、実技、 授業の取り組み、実技、	
	7	4	5章 プレゼンテーションソフトの活用 ・見学旅行に関する情報収集			○	◎	◎	授業の取り組み、実技、	
	8	6	・見学旅行文集作成 ・PowerPointの使い方			○ ◎	◎	◎	授業の取り組み、実技 授業の取り組み、実技	
	9	4	・PowerPointを用いたプレゼンテーションの作成			○	◎	◎	授業の取り組み、実技	
	1		前期期末考査			◎			考査	
	後 期	10	4	6章 表計算ソフトの活用						
		11	10	・Excelの使い方 ①基本問題を通した基本的な関数の実習 ②練習問題を通した関数の実習・グラフの作成			◎ ◎ ○	◎	○ ◎	授業の取り組み、実技 授業の取り組み、実技 授業の取り組み、実技
12		6								
1		4	・情報モラルと情報の活用に関する知識			◎		○	授業の取り組み、実技	
2		6	・根拠に基づく看護実践（EBP）			◎	○	○	授業の取り組み、実技	
3		6	・PDCAサイクルと看護過程			◎	○	○	授業の取り組み、実技	
1			後期期末考査			◎			考査	
合計		70								
学 習 方 法 ・ そ の 他										
◎授業の受け方										
(1) 実習が多い授業になります。普段の授業を大切にしてください。 (2) 毎回宿題が出ますので、必ず期日までに提出してください。 (3) 授業は、活用テキストを見て各自のペースで進め、分からないところがあったら、教員に聞くという形で進めていきます。										

教 科	看護	科目	臨床実習(授業・基礎実習)	学年	2	単位数	2	必修	
使用教科書	なし								
使用副教材	(1)系統看護学講座・専門分野・基礎看護技術Ⅰ（基礎看護学2）(医学書院) (2)系統看護学講座・専門分野・基礎看護技術Ⅱ（基礎看護学3）(医学書院)								
科目の目標	(1)臨床における看護実践の基礎について理解するとともに、関連する技術や援助が分かる。 (2)実施した援助を振り返り、今後の課題を確認することができる。 (3)患者とのコミュニケーションを通して、疾病を抱える患者の気持ちを理解することができる。								
評価の観点	① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨	看護の基本となる援助を科学的根拠をもとに身につけることができる。			看護援助について対象者の立場に立った視点を持ち、自分の考えを発することができる。			生徒自ら適切な挨拶をすることができる。提出物を過不足無く、期限内に提出することができる。意欲的に授業に参加することができる。		
評価の算出	定期考查、提出物、実技、その他（授業態度など）								
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容			①	②		③
前 期	4	1 4 4	事前学習 提示・指導 実習オリエンテーション、事前学習確認、実習記録の書き方、学生カンファレンス、実技練習 【実技項目】車椅子乗乗移送、食事介助、口腔ケア、入浴介助、バイタルサイン、レクリエーション、 更衣介助を基礎看護の授業と調整しながら実施				○ ◎	◎ ◎ ○	提出物 授業の取り組み、考查等 授業の取り組み、実技等
	5								
	6								
	7								
	8								
後 期	10	60	基礎実習 施設実習2週間 実習の振り返り、発表会準備、発表会			◎ ◎ ◎	◎	◎	実技、提出物 提出物、取り組み 考查
	11	1	後期中間考查			◎			
	12								
	1								
	2								
	3								
合計		70							
学 習 方 法 ・ そ の 他									
◎授業の受け方									
・実習の目的が何かしっかりと把握して臨みましょう。 ・事前学習は計画的に行い、準備をしっかりとしましょう。 ・実技練習は進んで行ってください。 ・各施設の特徴（どのような施設か、利用者の違い など）を考え、実習をしましょう。 ・定期考查は学んだこと全般についての知識確認しますので、総合的な復習が必要です。 ※「解剖生理」、「老年看護」、「成人看護」、「基礎看護」等の学習を関連づけて学習することが大切です。									